

| | |
|--------------|---|
| Title | こうようと写真 |
| Author(s) | 田中, 国士 |
| Citation | makoto. 1975, 12, p. 6-6 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/86216 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

こうようと写真

大阪府藤井寺保健所

田中国士

九月になると、いつせいに読書の秋、天高く馬肥ゆる秋などと言きだて始めるが、私は、食べ物の方には目が向いても読書の方はさっぱり手が出ない。それより今年はこのモミジがい

高雄であった。毎年毎年人が大勢おしかけるだけあつて美しいものであつた。しかし、本当にすばらしいと思つたのは北アルプスの瀧沢に入つた時であつた。

ものとして頭にこびりついていた。ところが、あるカメラ誌で瀧沢のすばらしい紅葉の写真が載つていたので見て、ぜひ行ってみようと思ひ十月初め友人を無理やり連れ出して出かけた。

最近の写真雑誌を見ていると明かるいものが少なく、技巧的なものとか組合わせに頼つたものなどが多く、本来の写真性というものからいくぶん離れているようであまり面白くない。流行もあるし、物の考え方も違ふのだからとりたてて忌みきらうのがおかしいものかもしれない。

（紅葉）が実にすばらしいもので、私は友人を山小屋にほったらかしにして撮影に夢中であつた。一度調子が出ると欲ばるもので瀧沢全体をねらつてみようとして近くの尾根に登りかけたが、日没の方が早く十分なものも撮れなかつた。



北アルプス瀧沢にて

いかなと、ガイドブックや山の本を引っぱり出してくのが例年である。目的は、紅葉の写真を撮ることである。名所といわれる所も一度は行っておかないと他の場所との比較にもならないし、基本的な見方も出来ないと思ふので出来るだけそういう所へも行くことにしている。しかし、御存じのとおり人が多くて写真どころの騒ぎではなく、疲れに行くようなもので、子どもでも連れて行くようなものなら、そらだつこ、そらジューズとひと苦勞である。前に行く御婦人のもみじ模様の着物でも見ている方がずつと楽しい……

モミジの写真を撮るのが目的でわざわざ出かけたのは京都の

二、三〇〇米級の山での紅葉がすばらしいということは以前から聞いていたが、夏山しか知らない私にとって秋の山はこわい

細かく計算していたのでは思ふようなものが撮れないので、自

だが朝日がさすと共に全山黄葉

上高地へ入るまでは雨がバラついていて雨が歩き始めると晴れ間が出はじめ天気は順調に回復していった。上高地周辺は、緑一色で紅葉している木は見られない。せっかくなのに早すぎてだめかもしれないと心配していたが、高度を増すにしたがつて紅葉した木が一本、又一本と目につき出し、ついには黄金のトンネルを通っているような気分になつてしまつた。ここまで来ると木は多いし、山は広いのでどこに重点をおいたらいいのかわからなくなるくらいで、しばらくカメラをぶら下げたままであつた。頭の中で何を撮るのか細かく計算していたのでは思ふ

いい場所、いい物に出会つてカメラにおさめようと考えた時、その人の気持ちを多くの人に伝えるには、見たもののものをしっかりとらえるべきだと、私は考へている。変にねじまげる必要など何も無いはずである。そうなる秋の写真でも難しいことは無く、秋の感じを出すにしてもあの薄い葉があざやかな紅や黄色で一枚一枚きらきら輝くとき、そのすばらしい感じを出すことがその時の一瞬の夢で他のことは何も考えないでシャッターを押していくわけである。瀧沢でもそのことしか頭に無く手当り次第にシャッターを押した。

秋の写真は、ごく近くでも楽しめるが時には遠くへ足を伸ばすのもいいもので、虫の音も聞こえはじめたし、皆様も一度きれいな空気を胸いっぱい吸ってすすきやもみじの写真を撮りに出かけてみてください。